

2010年11月1日

報道関係各位

サントリー酒類株式会社
タワーレコード株式会社

—「SUNTORY × TOWER RECORDS」コラボレーション企画 第3弾—

NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY.

～ 参加アーティストへの報酬はウイスキー“一生分”～

第3弾は新たにトーク＆ライブイベントを開催

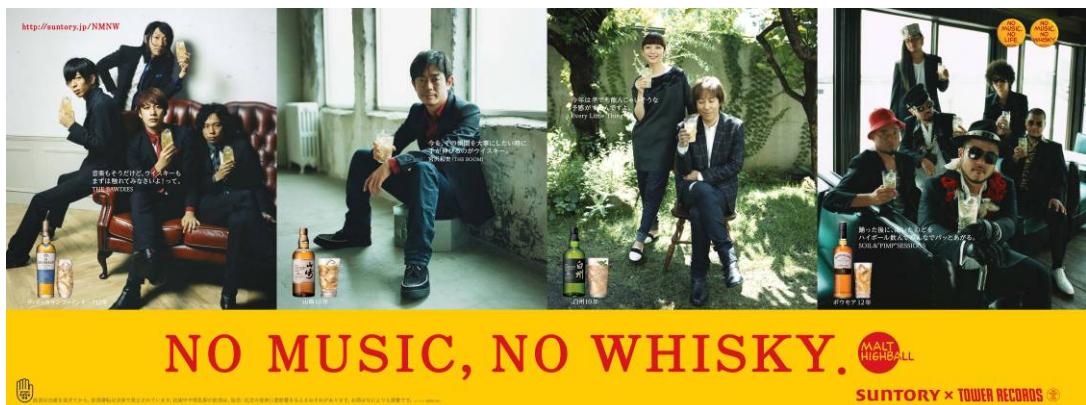
さらに移転15周年のタワーレコード渋谷店とのコラボレーション企画も実現

サントリー酒類(株)とタワーレコード(株)は、「音楽とウイスキー」をテーマに2009年秋から展開している広告企画、「NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY.」の第3弾を、11月1日(月)から12月31日(金)まで、全国のタワーレコードならびにタワーミニ85店舗(※)、交通・屋外・雑誌広告、および公式ホームページにて展開します。 ※11月19日オープンの大高店含む

「NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY.」は、音楽とウイスキーを愛するアーティストが、それぞれの音楽性にふさわしい個性を持つモルトハイボール(シングルモルトウイスキーのソーダ割り)とコラボレーション。アーティスト本人の目線で、“ハイボール”ならではの楽しみ方や魅力を広く紹介することを目的としたものです。また、各アーティストは、本企画の趣旨とウイスキー“一生分”というユニークな報酬に賛同し参加します。

第3弾となる今回は、宮沢和史さん(THE BOOM)、Every Little Thing、THE BAWDIES、SOIL&"PIMP"SESSIONS の4組・13名のアーティストが参加。それぞれ、「山崎 10年」「白州 10年」「ザ・マッカラン ファインオーク 12年」「ボウモア 12年」の4種のシングルモルトウイスキーを使ったモルトハイボールとコラボレーションし、広告を展開します。

また、11月2日(火)には渋谷「NOS ORG」にて、シングルモルトウイスキーと音楽をテーマにしたトーク＆ライブイベント(出演:箭内道彦、Port of Notes)を開催します。さらに、今年移転15周年を迎えるタワーレコード渋谷店とのコラボレーション企画も実現。渋谷店でのモルトハイボールの提供をはじめ、さまざまなイベントやキャンペーンを展開します。



NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY. 広告素材より

－企画概要－

➤ 名称

「NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY.」

➤ 展開期間

2010年11月1日(月)～12月31日(金)

➤ 主な展開内容

- 全国のタワーレコードとタワー・ミニ85店舗(11月19日オープンの大高店含む)での広告掲出
- 交通(東阪エリア)・屋外(渋谷)・雑誌での広告掲出
- 公式ホームページ(PC・携帯向け)
- 本企画が主催するトーク&ライブイベント
 - ✓ 11月2日(火)、渋谷「NOS ORG」／出演：箭内道彦、Port of Notes(第1弾に参加)
- タワーレコード渋谷店 移転15周年記念キャンペーンとのコラボレーション企画(11月末まで)
 - ✓ タワーレコード渋谷店B1F「STAGE ONE」でのモルトハイボールの提供と、広告掲出
 - ✓ 毎週金曜日 18時から、タワーレコード渋谷店のエントランスでモルトハイボールを販売
(店舗1Fフロアに限り、モルトハイボールを楽しみながらお買い物していただけます)
 - ✓ 15周年記念ライブイベント(11月15日(月)～19日(金)、渋谷「クラブクアトロ」)で、ウェルカムドリンクとしてモルトハイボールを提供

※ウイスキーの販売・提供は満20歳以上の方に限ります。

また、タワーレコード渋谷店では、日によって販売・提供しない場合があります。

➤ 企画趣旨

音楽とウイスキーを愛するアーティストとモルトハイボールのコラボレーションを通じ、“ハイボール”ならではの楽しみ方や魅力を広く訴求し、新たな“ハイボール”ファンの開拓を目指す。

※本企画のアーティストへの報酬、ウイスキー“一生分”は適正飲酒量の視点に立ち算出しています。

➤ 参加アーティストとシングルモルトウイスキーの組み合わせ

- 宮沢和史さん(THE BOOM) × 「山崎10年」
- Every Little Thing × 「白州10年」
- THE BAWDIES × 「ザ・マッカラン ファインオーク12年」
- SOIL&"PIMP"SESSIONS × 「ボウモア12年」

➤ 公式ホームページ [11月1日(月)に公開予定]

URL : <http://suntory.jp/NMNW>

*同時にモバイルサイトも公開予定

■参加アーティストコメント／プロフィール／商品特長

◆宮沢和史さん(THE BOOM) × 「山崎10年」

<ウイスキーと音楽について>

「山崎」は飲みやすいですね。日本人に向いているし、すべての人が好むバランスじゃないでしょうか。ときどき無性に飲みたくなります。旅先のお店でいい音楽が流れていると特に。

ウイスキーは、ジャンル問わずどんな音楽を聴いていても飲みたくなります。一人でかみしめたいような、とっても大切にしたい瞬間に、ウイスキーに手がのびるかもしれません。

<ウイスキー“一生分”的報酬について>

何も考えたくない夜にいたたくことにします。このウイスキーを楽しむためだけに封を開くことにします。「考え方のない夜などないだろう？」そう言われたら返す言葉がなくなるけれど、これを飲んでいる時くらいは、何もかも忘れさせてください…。

<プロフィール>

1989年、ロックバンド「THE BOOM」のボーカルとしてデビュー。これまで「THE BOOM」としてアルバムを12枚、宮沢和史としてソロアルバムを4枚、「GANGA ZUMBA」として2枚リリース。「THE BOOM」の代表曲のひとつ、「島唄」は国内でミリオンセラーとなったほか、世界的にもヒットした。また、作家としても多くのミュージシャンに詞・曲を提供している。最近では2010年9月にシングル「蒼い夕陽」をリリースした。

<山崎10年の特長>

ホワイトオーク樽を中心としたモルト原酒の中から酒齢10年以上のものを厳選。甘い果実、ナツツを想わせる香りが特長。

◆Every Little Thing × 「白州10年」

<ウイスキーと音楽について>

ミントが好きなので「森香るハイボール」※は、飲むと気持ちが落ち着きます。音楽でいえば、日本のとてもきれいな森の中。やさしい音のイメージだと思います。(持田)

「白州」は上品な香りがいいですよね、日本人のいいところが出ているというか。ハイボールを飲んだときの、爽やかで陽気になれる感じが好きで、よくみんなで盛り上がって飲んでいます。(伊藤)

※白州10年のハイボール+ミント

<ウイスキー“一生分”の報酬について>

父が本当に喜びます。子どものころ、父がウイスキーを飲むときには、グラスに氷を入れてあげ、つくるのを手伝っていました。たまに帰ったときには、あのころを思い出しながらつくってあげたいです。もちろん、自分も美味しくいただきたいです。(持田)

一生分のウイスキーを頂けることになりました。日本のウイスキーも本当にうまい。水質の良さと技術のおかげだそうだ。嬉しいとき、哀しいとき、くつろぎのとき、美味しいお酒を飲むのが好きです。人生が豊かになる気がします。そこに良い音楽があれば、最高です！(伊藤)

<プロフィール>

ボーカル・持田香織、ギター・伊藤一朗によるユニット。1996年に「Feel My Heart」でデビューし、1998年の「Time goes by」で初のミリオンセールスを達成。その後も2001年の「fragile」などヒット曲を世に送り出し続け、来年には活動15周年を迎える。最近では2010年3月にアルバム「CHANGE」をリリース。

<白州 10年の特長>

軽快なスモーキーフレーバーとフルーティーな香味が調和。クリーミーな味わいとキレのよいアフターテイストが特長。

◆THE BAWDIES × 「ザ・マッカラン フайнオーク 12年」

<ウイスキーと音楽について>

シングルモルトウイスキーって、ロックとかストレートの方が味がよくわかるかと思いまいや、ソーダで割っても、良さが引き立って飲みやすいですよね。ハイボール結構好きです。(TAXMAN)

ウイスキーや僕らの好きな60年代の音楽もそうだと思いますが、若い世代からすると、昔のものって大人なイメージが先行しちゃって、あまり手にしない事が多いですね。でも、どちらもまずは触れてみてほしい。中に入ってみて、そこで自分の答えを出してほしいですね。(ROY)

<ウイスキー“一生分”の報酬について>

シングルモルトウイスキーを一生分いただけるなんて二度と無いので、一生ウイスキーと決めていた僕は本当に嬉しいです。ただ、10年くらいで飲み干さないよう、気をつけて飲みます！(TAXMAN)

<プロフィール>

2004年、小学校からの同級生のROY、JIM、MARGYと高校からの同級生、TAXMANの4人で結成。リズム＆ブルース／ロックンロールのルーツを昇華した楽曲で、2009年にメジャーファーストアルバム「THIS IS MY STORY」をリリース。以降、CDリリースや全国各地でのライブなど精力的に活動。最近では、2010年4月に「THERE'S NO TURNING BACK」をリリースした。

<ザ・マッカラン ファインオーク 12 年の特長>

シェリー樽とバーボン樽の熟成原酒を絶妙なバランスでバッティング。バニラとシェリー樽由来の華やかな香りと、フルーツ、オーク、スパイスのバランスがとれたスムーズな味わいが特長。

◆SOIL&"PIMP"SESSIONS × 「ボウモア 12 年」

<ウイスキーと音楽について>

ボウモアは、ハイボールにしたときの、炭酸でブワッと広がる、口を近づけただけで感じる香りがいいです。音楽だと、小難しいジャズというよりも、みんなで楽しく踊れるような、明るい感じの曲が合いそうですよね。(社長)

スコットランドはツアーデ行ったことがあるけど、ウイスキーに自然の空気とか水の味が反映されているのがわかる。ハイボールは踊った後の、渴いたのどに合いそう。ちょっと高台に上がって、みんなで「カンパニー」っていうのもいいね。潮の香りを嗅ぎながら。(元晴)

<ウイスキー“一生分”的報酬について>

結婚、誕生、入学、卒業。これから先、メンバーそれぞれが迎えるであろう人生のハレの日を、このウイスキー達が彩ってくれるだろう。自分達の子供が二十歳になったら、この話をしながら、酒を酌み交わしたいね。(社長)

<プロフィール>

2001 年、東京のクラブイベントで知り合った、社長、タブゾンビ、元晴、丈青、秋田ゴールドマン、みどりんの 6 人で結成。ライブ & パフォーマンスを中心とした活動を信条とし、確かな演奏力とクールな雰囲気を併せ持った爆音ジャズを展開。国内外のさまざまな音楽フェスにも多数出演している。2004 年には初音源となるアルバム『PIMPIN'』をリリース。2010 年 12 月には初のカバー アルバム「SOIL&"PIMP"SESSIONS presents STONED PIRATES RADIO」をリリース予定。

<ボウモア 12 年の特長>

「アイラモルトの女王」の名に相応しい、適度なピート香と潮風の香りに加え、スパイシーさまでを秘めたベストバランスのアイラモルト。

■<ご参考>第 2 弾の参加アーティストとシングルモルトウイスキーの組み合わせ

- ◆ 藤井フミヤ × 「山崎 10 年」
- ◆ JUJU × 「白州 10 年」
- ◆ 菊地成孔 & 矢野沙織 × 「ザ・マッカラン 12 年」
- ◆ 谷中敦(東京スカパラダイスオーケストラ) & 武藤昭平(勝手にしやがれ) × 「ボウモア 12 年」



宮沢和史さん × 「山崎 10 年」



Every Little Thing × 「白州 10 年」



SOIL&"PIMP"SESSIONS × 「ボウモア 12 年」



THE BAWDIES ×
「ザ・マッカラン フайнオーク 12 年」

NO MUSIC, NO LIFE. NO MUSIC, NO WHISKY. インタビュー風景より

＜本件に関するお問い合わせ先＞

(株)電通パブリックリレーションズ 担当 高橋・細井

TEL: 03-5565-8466 ／ FAX: 03-5565-4467